



給食だより 1月号

さいたま市立三室小学校
校長 井上 美登利
栄養士 森下 かほる

1月は全国学校給食週間があります

新年明けましておめでとうございます。今年も、みなさんの心と体の栄養を満たす安心・安全・おいしい給食を提供していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、1月24日から30日の1週間は「全国学校給食週間」です。この機会に、普段、何気なく食べている学校給食について、改めて考えてみましょう。

学校給食のはじまり

みなさんが毎日食べている学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町にある私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこられない子どもたちのために、無料で食事を提供したことが始まりと言われています。その後、全国で実施されるようになりましたが、戦争による食料不足で中止されました。

全国学校給食週間とは

学校給食は、戦争のために中断されていましたが、戦後の食糧難により子どもたちの栄養状態が悪化したことから、その必要性が叫ばれるようになり、再開することになりました。

まず試験的に、昭和21年12月24日に、三都県（東京、神奈川、千葉）で実施することになり、同日に東京都内の小学校でララ（アメリカの宗教団体等からなるアジア救援公認団体）からの給食用物資の贈呈式が行われました。その日を「学校給食感謝の日」と定めていましたが、その後、冬期休業と重ならない1月24日から30日までの1週間は「全国学校給食週間」としました。「全国学校給食週間」は、世界中の人々の温かい心で給食が再開されたことを記念する行事です。期間中は、食べることの大切さを理解し、食べ物や給食に関わる人たちへの感謝の気持ちをもって、いただきましょう。

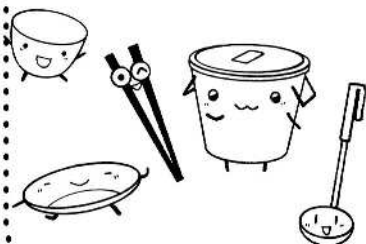
学校給食の役割

日本で学校給食が始まったのも、戦後再開されたのも、子どもたちを飢えから救うためでした。しかし現在では、食べることが困難だった頃から大きく変わり、偏った栄養摂取をはじめ、肥満や生活習慣病の増加など、子どもたちの健康状態が心配されることから、バランスのよい食事の手本として、学校給食は『生きた教材』の役割を担っています。

三室小学校の 給食週間は

1月23日～

1月27日



揚げパンのはなし

おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんが子どもの頃から、給食の人気メニューは「揚げパン」です。この「揚げパン」、実は学校給食が戦後再開された頃に、東京都大田区で誕生しました。当時は食べ物が不足し、子どもたちの一番の楽しみは給食でした。ある日、風邪で多くの子どもたちが学校を休みました。現在はできませんが、昔は休んだ子どもの家にお友達が給食のパンを届けてくれていました。でも、パンは置いておくと、すぐに硬くなってしまいます。「パンを揚げてみようか・・・」腕利きの調理員さんのひらめきが、揚げパンの誕生につながりました。